

# 中学校の中庭、いこいの庭で 長久寺遺跡初の本格的調査

## 竪穴建物の集落跡、埴輪棺、円筒埴輪など 縄文から中世までの遺構と遺物を多数出土

長久寺遺跡の一部が敷地内にある金城学院中学校で、新築工事を前に埋没文化財の発掘調査が行われました。

区域は中学校の中庭(221㎡)と、いこいの庭(383㎡)。

長久寺遺跡の調査はこれまで数回行われましたが、断片的な記録が残るのみで本格的な調査は今回がはじめて。

調査の結果、中庭では縄文時代の竪穴建物2~3棟など縄文・弥生・古墳の各時代と、古代・中世の各時期の遺構と遺物、いこいの庭では縄文時代から中世に至る各時期の遺物1895点が出土しました。

### Ⅰ 名古屋の考古学界にとって貴重な調査結果が次々、明らかに

2016年4月1日から6月3日まで、2地点で行われた今回の調査では、それぞれで大きな成果が得られました。出土した遺物について名古屋市教育委員会文化財保護室学芸員の木村有作さんに解説いただきました。

「今回の調査では縄文時代中期後半の竪穴建物2~3棟を検出。これにより集落としての様相が見えはじめたと言えます。弥生時代では前期の溝を検出。弥生時代以降も人々の土地利用は続き、古墳時代の前期、4世紀終わりから5世紀はじめごろの埴輪棺、そして埴輪の中で一番シンプルな形をした円筒埴輪の発見がありました。埴輪棺の近くには古墳が存在していた可能性が高いと思われます。埴輪棺と円筒埴輪の作られた時代は同じではなく、円筒埴輪は別の古墳のものを再利用したものと推測しています。埴輪棺は、名古屋市内ではほとんど見つかっていません。これだけ古い時期に作られた埴輪棺は、志段味古墳群の中社に次ぐもの

です。このような古い時期の埴輪棺が見つかったということ自体が名古屋の考古学にとって貴重な発見ということになります」

今回の発見により、周辺が非常に長い間、人々に利用されてきた場所だったということが明らかになり、長久寺遺跡の一端をより詳細に理解するための調査結果が得られました。

木村さんは「これを縁に、昔の人たちの暮らしを学ぶことは非常に有意義なことだと思います。この場所で昔の人はどんな暮らしをしていたのか、その痕跡が地面には刻まれています。残念ながら近々に出土したものの展示予定はありません。なるべく早い時期での公開をめざしての計画を立て、みなさんが歴史に触れる場をつくりたいと思っています」と話されました。



出土円筒埴輪(現在は名古屋市教育委員会文化財保護室で管理)



発掘作業の風景(撮影:杉浦秀昭)

(参考:「長久寺遺跡発掘調査報告書金城学院中学校建築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査」)